

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成30年度実施事業)

白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和元年9月5日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

I 事務の点検・評価について

1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2. 点検評価の対象

平成30年度に教育委員会が定める「白石市教育方針」に掲げた事務事業を対象としました。

3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、外部の学識経験者より意見をいただきました。

4. 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが行った点検・評価の結果について、学識経験者2人から意見をいただいた。

学識経験者：小関 俊昭 氏 学識経験者：鈴木 るみ 氏

5. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、全校の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成30年度白石市教育方針等について

白石市教育方針

教育基本法の精神に基づき、生きる力(豊かな心・健やかな体・確かな学力)を持つ幼児・児童・生徒を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」の実現を期する。

1 学校教育の充実

魅力ある学校づくりと教職員の資質・力量の向上

〈基本方針〉

〈重点施策〉

〈重点事項〉

学
校
教
育
の
充
実

(1) 創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進

- ① 市内の自然、文化、人材、施設などを活かした特色ある学校づくりの推進
- ② 学校の特色や探求の対話(p4c)を活かした教育課程の編成と実施
- ③ 2学期制を活かしたゆとりある教育活動の展開
- ④ 学習指導要領の確実な実施に向けた、小・中学校の教育課程の編成
- ⑤ 発達段階に応じた志教育の推進
- ⑥ 基礎・基本の確実な定着と活用する力や学びに向かう力を高める学習指導の工夫
- ⑦ 少人数指導や習熟の程度に応じた指導の積極的な導入と児童・生徒一人一人に応じた指導の充実
- ⑧ 自ら計画を立てて継続させる家庭学習の定着
- ⑨ 心身の健康と安全に留意した教育活動の展開
- ⑩ 学校給食及び他の教育活動による食育の推進
- ⑪ 国際理解教育の推進
- ⑫ 情報社会に対応できる情報活用能力の育成
- ⑬ 持続可能な開発のための教育(E S D)の推進
- ⑭ 「共に生きる」心を育てる福祉・人権教育の推進
- ⑮ 小規模特認校による特色ある教育活動の展開と就学の推進
- ⑯ 特別支援教育の充実と発展
- ⑰ 生きる力の基礎となる道徳性や社会性の芽生えを培う 幼児教育の充実
- ⑱ 小・中・高の連携を意識した英語教育の充実

(2) 豊かな人間性を育む「心の教育」の推進

- ① 人間として、社会人として、市民としての在り方や生き方及び誇りを考えさせる志教育の実践
- ② 心に響く道徳教育の推進と「特別の教科 道徳」の充実
- ③ 生徒指導の充実と強化
- ④ 命を大切にすることを育む社会体験や自然体験及び文化・スポーツ活動等の一層の推進
- ⑤ 心を耕す 読書活動(読み聞かせ・朝の読書等)の推進
- ⑥ 家庭との協力を図りながら行う情報モラルの育成
- ⑦ 社会体験活動やボランティア活動をととした福祉・人権教育の充実

(3) 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進

- ① 地域の人材(学校支援ボランティア)や施設等、地域の資源を活かした体験学習の推進
- ② 地域や家庭と連携した実効性のある防災体制づくり
- ③ 自己評価や学校関係者評価等の結果を反映させた学校運営の推進
- ④ 地域活動や事業への児童・生徒の積極的な参加奨励(地域の祭り・文化・スポーツ・清掃活動等)
- ⑤ 家庭教育に関する学習機会の充実
- ⑥ 幼児教育の積極的な支援体制づくり及び幼・保・小・中の連携推進
- ⑦ 青少年相談センター等の関係諸機関と連携した相談活動の推進
- ⑧ 警察等の関係諸機関と連携した安全教育の充実と徹底
- ⑨ 関係諸機関と連携した薬物乱用防止教育や金銭教育(租税教育)等の推進

(4) 資質向上を図る教職員研修の充実

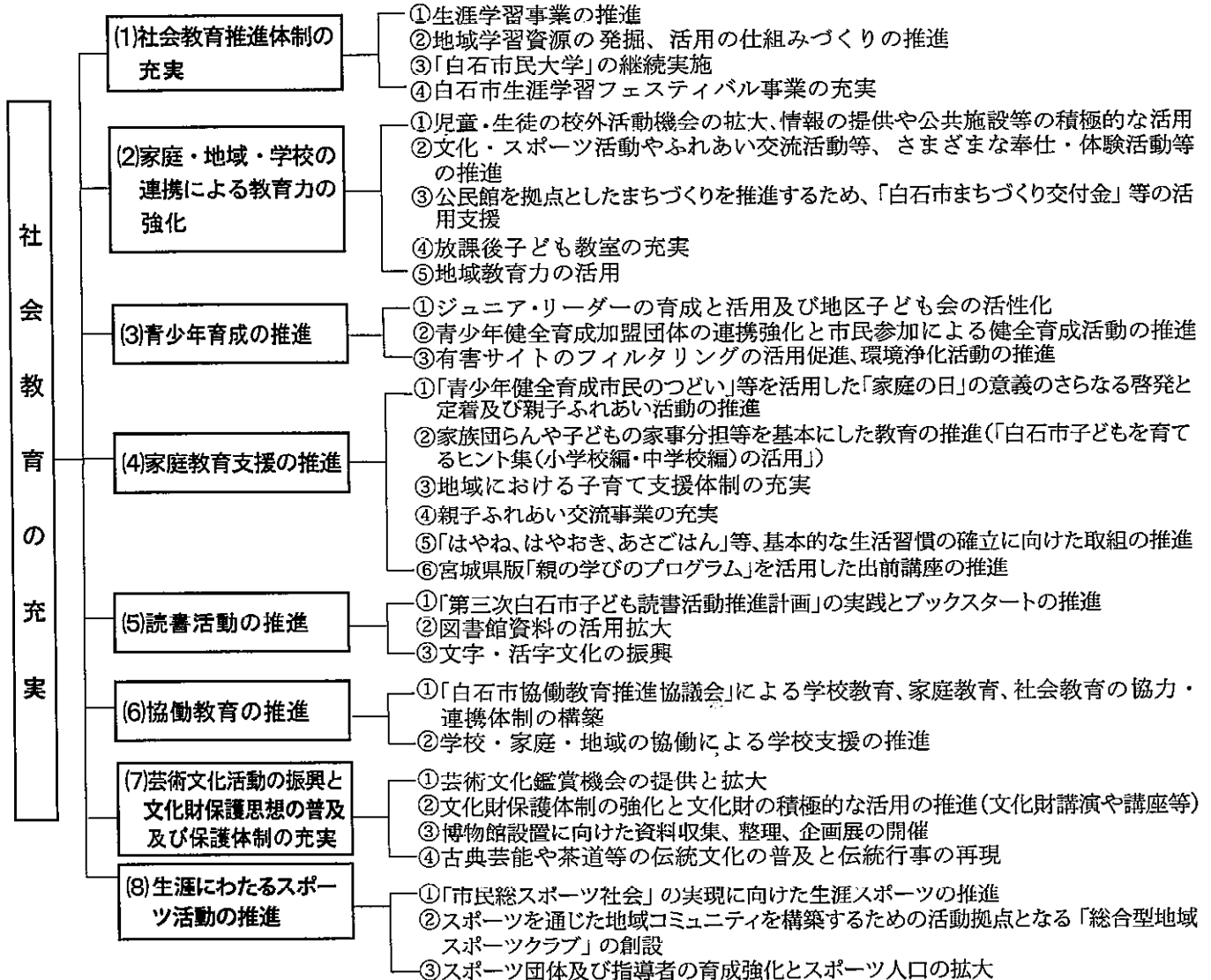
- ① 心の教育や学力の向上等に向けた研修の充実
- ② 市内の自然や文化、歴史的資源の一層の理解
- ③ 教職員の健康増進と福利厚生への充実

2 社会教育の充実

心豊かで生きがいのある生活の創造と連帯意識に満ちた活力ある地域づくり

〈基本方針〉〈重点施策〉

〈重点事項〉

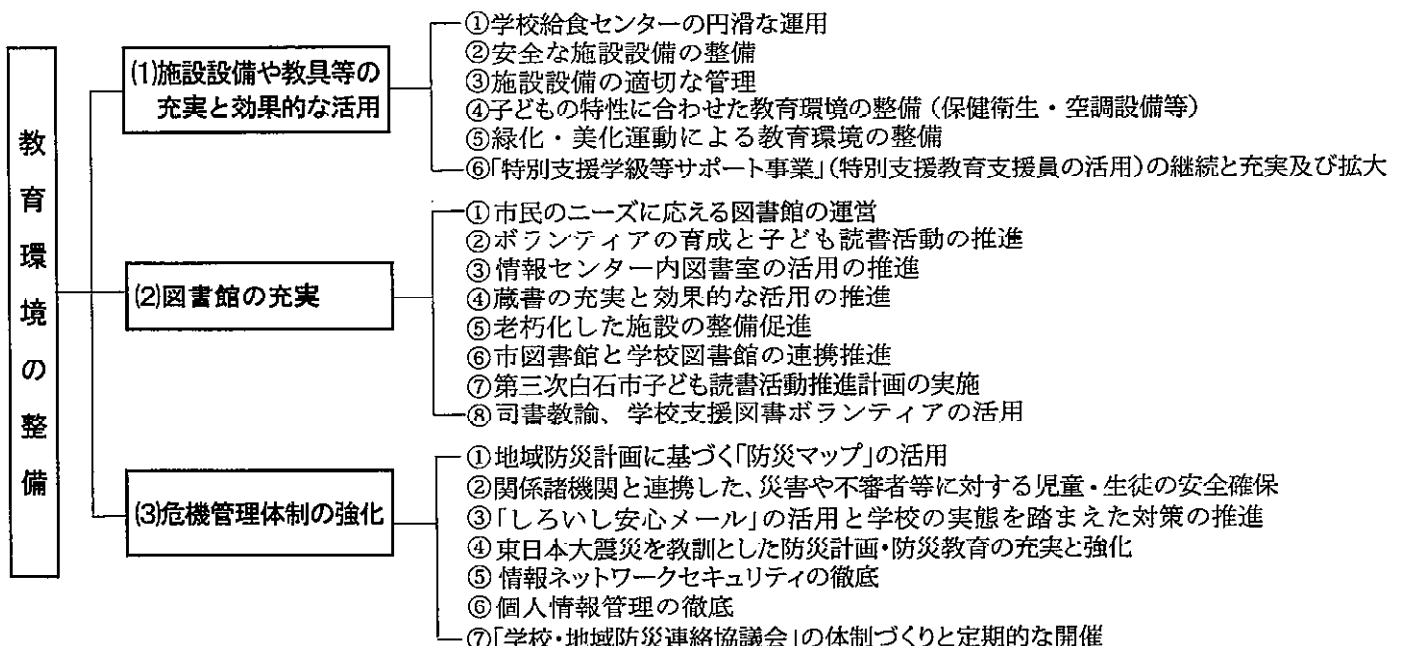


3 教育環境の整備

ゆとりとうるおいのある教育環境づくり

〈基本方針〉〈重点施策〉

〈重点事項〉



基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	施設設備や教具等の充実と効果的な活用 3-(1)-②③		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設の維持修繕、維持点検により教育環境の充実を図る。		
1. 平成30年度予算額	9,182千円	2. 平成29年度決算額	13,333千円
3. 平成30年度の事業内容	小・中学校及び幼稚園の定期的な維持修繕、保守点検管理等を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。限られた財源であるので、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、対応している。)		
4. 事業の実績	施設修繕要望件数115件のうち、当初予算(修繕費)にて14件の修繕を行った。その他にも必要性・緊急性などを勘案して、補正予算でも修繕を行ったケースもある。		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 必要性・緊急性を勘案しての30年度当初予算、緊急性によりやむを得ず要求した補正予算については、スピーディーに発注することができた。</p> <p>【課題】 施設の老朽化が進んでいることもあり、屋根からの雨漏れ、水道管などからの漏水が想定以上に発生していることから、予防的な修繕にまで手が回らなくなっている。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・学校の環境を整えてもらえるのはありがたいが、修繕費は少ないと感じた。必要性・緊急性を考慮し、学校としては一刻も早く修繕してほしいというのが願いであると思うので、今後も早く修繕していただきたい。</p> <p>・できれば予防的な修繕を行っていただきたい。予算の兼ね合いもあり難しいと考えられるが、修繕計画をたてて予防的に修繕を行えば、費用の削減になると思われる。</p>		

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課学務係
事業名	就学援助事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 1-(1)-⑨		
事業の目的・目標	経済的理由によって、義務教育である小学校、中学校に就学することが困難な児童・生徒の保護者に支援をすることで、義務教育の機会を確保する。		
1. 平成30年度予算額	28,111千円	2. 平成29年度決算額	20,835千円
3. 平成30年度の事業内容	<p>生活保護受給世帯の児童生徒(要保護)及び生活保護に準ずる程度に困窮している世帯の児童生徒(準要保護)に対し、就学に必要な以下の項目へ補助を行っている。</p> <p>(1) 学用品費、(2) 通学用品費、(3) 校外活動費(泊なし)、(4) 校外活動費(泊あり)、(5) 修学旅行費、(6) 学校給食費、(7) 新入学児童生徒学用品費、(8) 医療費</p> <p>要保護世帯に対しては、生活保護で支払われない「(5) 修学旅行費」のみ支給している。準要保護世帯は全ての項目が対象であるが、新入学児童生徒学用品費や泊あり校外活動費、修学旅行費といった特定の学年にのみ支給されるものもある。</p>		
4. 事業の実績	<p>支給対象者は要保護が小学生7名(5名、+2名)、中学生2名(3名、△1名)で、準要保護は小学生155名(159名、△4名)、中学生90名(83名、+7名)である。</p> <p>要保護、準要保護児童生徒が市内児童生徒に占める割合は、小学生10.41%(10.58%、△0.17%)、中学生11.06%(9.93%、+1.13%)となっている。</p> <p>※括弧内はH29実績値、H29とH30の比較を表す</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>雇用形態の変化や格差、病気や離婚等の理由で経済的に困窮している家庭は少なくない。そのような中でも児童生徒には引け目なく義務教育に取り組んでもらいたい。そのためのセーフティネットであり、その果たしている役割は重要であると考えます。</p> <p>【課題】</p> <p>児童生徒の総数が減少している割に支給対象者が減らない。核家族化や離婚、格差の拡大が背景にあると考えられる。</p> <p>また、申請制なので、制度を知らないあるいは制度利用に引け目を感じる等の理由で真に必要な家庭に支援が届いていない可能性がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・少子化なのに対象者が減らないという状況がある。必要な子どもに支援が届いていないケースがあるのであれば、学校や福祉をからめてすくい上げる必要がある。</p> <p>・援助が必要な家庭は概ね網羅していると思う。周知・理解も進んでいると考えている。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課指導係
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 1-(1)-⑪		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 平成30年度予算額	25,779千円	2. 平成29年度決算額	30,370千円
3. 平成30年度の事業内容	平成30年度は4名のALTにより、市内全小・中学校及び保育園・幼稚園にALTを派遣し、授業での活用や交流活動を行った。また、「国際交流カフェ」等の国際交流事業においても活用を行った。		
4. 事業の実績	学校配置日数(H29) 配置人数 6名 配置日数計 1,346日(平均 224日)		
	学校配置日数(H30) 配置人数 4名 配置日数計 841日(平均 210日) ※平成30年度は学校をブロック化せず変則的に配置。小学校週1日(白一小2日、白二小3日)、中学校週1~2日、保育園・幼稚園年3日配置。		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】小学校においては、英語が5,6年生から外国語活動として導入されていることから正確な生の発音を聞くことにより、「話す、聞く」能力の向上が図られ、英語に対する学習意欲が向上した。中学校についても、正確な発音を聞くことにより、さらに「話す、聞く」能力の向上が図られたほか、ALTを学校行事等にも参加させることで、生徒と接する機会を増やし、コミュニケーション能力の育成やその国の歴史や考え方など異文化に対する理解の促進につながった。幼稚園・保育園では、遊びやゲームを通して園児と交流することで、幼児期から他国の文化や英語にふれることができた。また、平成29、30年度に実施した宮城県の補助事業である「小・中連携英語教育推進事業」においても、ALTを活用することで、「ホワイトスタンダード」(小・中連携のための英語スタンダード)の作成、授業の実践等の成果をあげることができた。</p> <p>【課題】新学習指導要領の導入を前に、小学校においてALTの需要が高まっている。限られた人員でいかに効率的に配置できるかが課題である。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・ALTの活用については、先生方との連携や研修が必要なのではないか。国際交流カフェ等の行事へALTが参加しているのは良いことである。</p> <p>・ALTの活用だけが国際理解教育ではない。先生方への研修が必要である。ホワイトスタンダードの作成・実践は良い取り組みである。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課指導係
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進、学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進 1-(2), 1-(3)		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 平成30年度予算額	14,668千円	2. 平成29年度決算額	13,461千円
3. 平成30年度の事業内容	白石市子どもの心のケアハウス、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの活用。白石市生徒指導問題対策会議、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会を開催した。		
4. 事業の実績	平成29年度 ケアハウス：支援児童生徒実人数82人(学校復帰児童生徒実数7人)、保護者支援総数一人(データなし) 相談センター：相談件数34件、街頭巡回指導(声かけ運動)件数103件 仙南けやき教室：通所者15名、相談件数73件 スクールソーシャルワーカー：支援児童生徒数24人、訪問活動回数183回 スクールカウンセラー：相談件数小学校児童61件、教員18件、保護者263件 中学校生徒370件、教員242件、保護者169件		
	平成30年度 ケアハウス：支援児童生徒実人数124人(学校復帰児童生徒実数3人)、保護者支援総数139人 相談センター：相談件数31件、街頭巡回指導(声かけ運動)件数649件 仙南けやき教室：通所者11名、相談件数75件 スクールソーシャルワーカー：支援児童生徒数35人、訪問活動回数279回 スクールカウンセラー：相談件数小学校児童122件、教員36件、保護者424件 中学校生徒544件、教員242件、保護者134件		
5. 事業の成果・課題等	【成果】ケアハウス事業も3年目となり、学校や家庭と関係機関をつなぐコーディネーター的な役割が明確化し、不登校などの改善に成果を上げている。平成30年度で第3回目となった白石市いじめ防止大会は、会場を市役所会議室から中央公民館へ移すことで、人権擁護委員や民生委員にも観覧いただくことで、学校ばかりではなく地域へもいじめ防止を発信することができた。 【課題】支援体制は整いつつあり、個々のケースを見れば事業の成果が現れているものの、本市における不登校の出現率は依然高く、不登校者数の減少など、目に見える成果は現れにくいのが現状である。学校現場では問題をどこに相談したらよいのか分からないといった声も聞かれ、各機関が連携を密にとり、適切にコーディネートしていくことが重要である。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・スクールカウンセラーへの相談件数が倍近くに増えている。スクールカウンセラーの人数が増えていないのであれば、相談しやすい状況になっているといえる。 ・不登校出現率が高い、目に見える成果が現れにくい、といった分析をしているようだが、そうでもないのでは、と感じている。 ・学校に復帰できている子どもがいれば、それだけで成果である。数の大小ではない。相談件数が増えているのは成果だと思う。		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 平成30年度予算額	6,948千円	2. 平成29年度決算額	4,063千円
3. 平成30年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <p>○家庭教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催・県主催「学ぶ土台づくり親の学び研修会」の共催実施・親子リトミック&家庭教育学級 <p>○学校教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 <p>○地域活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 <p>○放課後子ども教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越河小学校・深谷小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営 		
4. 事業の実績	<p>・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計15校(16校)、市内幼稚園2園(市内幼稚園2園・保育園1園)</p> <p>・年間活動日数：第一小265日(296日)、第二小258日(283日)、越河小86日(43日)、大平小25日(18日)、大鷹沢小111日(21日)、白川小18日(31日)、深谷小28日(32日)、福岡小40日(53日)、小原小21日(18日)、白石中2日(41日)、南中8日(11日)、白川中45日(3日)、小原中18日(17日)、東中17日(85日)、第一幼稚園5日(5日)、第二幼稚園9日(11日)、北保育園0日(1日)</p> <p>・家庭教育学習講座の実施数：7校5園(県共催実施も含む)(7校5園)</p> <p>※()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、昨年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。過去6年間の実績を踏まえ、家庭教育支援では実施学校が増加傾向にあり、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている、学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動して頂いており、放課後子ども教室は実施校も増やすことができた。</p> <p>【課題】全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>・学校にボランティアの人達が来てくれるのは大変うれしいことである。</p> <p>・小学校には多くのボランティアが入っているとは思っていたが、中学校にも多くのボランティアが入っているので感心した。</p> <p>・地域コミュニティの衰退は感じているし、地域の活動や行事への参加が減っている。今後、コミュニティスクール等、地域と学校が連携・協働・コラボして行くことが大切である。</p> <p>・地域コミュニティの再構築は非常に難しい課題である。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡のまち整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	市内に所在する歴史遺産について、説明板を設置し、来訪者の見学に供するものである。また、各種開発事業、保存目的の遺跡発掘調査を実施するものである。		
1. 平成30年度予算額	4,967千円	2. 平成29年度決算額	5,440千円
3. 平成30年度の 事業内容	市内に設置してある文化財説明板のうち、風雨にさらされ、文字の判読が難しくなったものを塗り替え、更新を実施した。 市内遺跡発掘調査等では、個人住宅建設を中心として、事業予定地内における埋蔵文化財の有無確認、発掘調査を実施した。保存目的の調査(測量)を実施した。		
4. 事業の実績	(平成29年度)文化財説明板の塗り替え2件、試掘確認調査、保存目的調査20件、 (平成30年度)文化財説明板の塗り替え4件、試掘確認調査、保存目的調査23件		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】事業により、説明板の更新が実施でき、来訪者への説明が継続できた。試掘確認調査、保存目的調査により、開発事業者と文化財保護の円滑な調整ができ、各種開発事業への影響を最小限とし、事業主の負担の軽減ができた。 【課題】市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、塗り替えはしばらく継続する見込みである。昭和50年代に設置した説明板は、経年劣化しているものもあり、建て替えが必要なものもある。試掘確認調査、保存目的調査は、文化庁の補助金が削減傾向にあり、十分な事業費の確保が難しくなっている。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に文化財の説明板が300カ所もあることにびっくりしている。 ・市の予算も限られていることから、地域で文化財を守ることが大切だと思うし、できればお寺さんや神社、地区の自治会等で管理してもらえれば良いと思う。 ・老朽化した看板をボランティアで修理してくれる人、地域で修理してもらえればありがたいと思う。 ・文化財に対する意識付け啓発が大切だと思う。 		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	生涯にわたるスポーツ活動の推進 2-(8)-①		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 平成30年度予算額	4,791千円	2. 平成29年度決算額	4,938千円
3. 平成30年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民綱引き大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市体育協会事業)及び学校施設開放業務</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (H29実績)計10回開催(うち小学校7回、地区公民館等3回)、参加者(延べ)519名 (H30実績)計18回開催(うち小学校12回、地区公民館等6回)、参加者(延べ)837名</p> <p>○各種スポーツ大会の開催 市民グラウンドゴルフ大会、白石市ふるさとスポーツ祭、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・白石市では、スポーツイベントをたくさん開催しているし、生涯スポーツの推進にも力を入れている。</p> <p>・市内の学校でも、ニュースポーツが盛んだし普及している。白石市ではいろんな道具もそろえている。</p> <p>・学校の中でも取り入れており、子供たちにもニュースポーツが定着している。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-②		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 平成30年度予算額	千円	2. 平成29年度決算額	千円
3. 平成30年度の 事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ●利用回数: (H29)2,626回 (H30)2,201回 ●利用人数: (H29)53,552人(うち 主催事業28,276人、社会教育関係団体13,602人、その他11,674人) (H30)51,748人(うち 主催事業27,323人、社会教育関係団体13,144人、その他11,281人) 		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】指標として、利用回数、利用人数を対比し、評価検証を行う。 利用回数は、対前年度比△425回(△16.2%)と減少、利用人数も対前年度比△1,804人(△3.4%)と微減しているものの、ここ数年間の推移としてはほぼ横ばいとなっている。</p> <p>【課題】生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりの推進により、各種講座の実施及び充実を行い、中央公民館の利用促進に努める。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館は、利便性も高いし利用しやすいので、利用率も高い。 ・市民が必要としている講座も数多く開催している。みんなが楽しめるような講座も開催してほしい。 ・人口減少の中で、利用者の横ばいは良いと思うし、公共施設としての役割を果たしている。今後、老朽化していくので、施設・設備の整備(メンテナンス)に力を入れてほしい。 		

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校給食センター
事業名	学校給食運営事業		
重点施策 (白石市の教育より)	施設設備教具等の充実と効果的な運用 3-(1)-①		
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。		
1. 平成30年度予算額	268,390千円	2. 平成29年度決算額	268,528千円
3. 平成30年度の 事業内容	学校給食の充実に図り、安全で安心な給食を提供する。		
4. 事業の実績	<p>適切な栄養価を確保し、児童生徒の嗜好、及びその他必要事項を調査分析し望ましい給食の提供に資すること、加えて、給食指導に生かすことを目的として残食調査を実施した。</p> <p>※主な結果(対前年比)</p> <p>小学校:主食6.5%(-0.2)主菜11.5%(-4.1)副菜19.7%(-7.5)食缶7.3%(-3.1)牛乳-0.5%(-1.5)デザート1.5%(2.3)</p> <p>中学校:主食8.4%(-0.1)主菜10.0%(-7.4)副菜18.1%(-10.1)食缶7.6%(-5.2)牛乳5.5%(-1.8)デザート-0.1%(-0.3)</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】</p> <p>成果指標として残食率を採用した。主食・主菜・副菜・汁物毎の残量を把握し、献立その他の内容により嗜好等を含む、傾向を把握することができた。好きなものは残さないが、苦手なものは残す傾向は従前と同様の傾向。また、通年調査により夏期が比較的残食率が高い傾向も把握できた。</p> <p>【課題】</p> <p>多くの項目で残量自体は前年度を下回ったものの(中学生は全項目)、同様に給食総量も減少していることから、結果として残食率としてはほぼ横ばいとなった。苦手なものも食べようとする意識を身につけさせることが重要であり、今後も給食指導や食に関する指導の重要性を感じている。また併せて栄養士等の工夫により実施している栄養価と食味とのバランスによる残食率逡減の取り組みを継続する。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・児童生徒の好き嫌いで変動する残食率は、困難度が高い指標を採用した印象。栄養士の献立面での努力や給食センターのアレルギー対応の取り組みについても、学校を通じ家庭に繋げること等、学校の役割も重要。今後、より連携の必要性を感じた。</p> <p>・毎日当たり前に給食が食べられることはありがたいことで、取組評価を残食率で表すのはセンターに酷な選択。児童生徒の好き嫌いをなくすために家庭での食事が重要であることを保護者にどう啓蒙していくかが肝要で、全体的に望ましい食生活へ変えることは教委やセンターだけでは困難。一方で、(家庭によっては家での食事に課題があることから)学校給食が唯一のバランスのとれた栄養を摂取する機会の下支えになっているケースもあり、大事な場となっている。</p>		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進 2-(5)-② ・図書館の充実 3-(2)-①,②,③,④		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まですべての市民の生涯学習の場として、資料や情報を収集、提供し、「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 平成30年度予算額	26,022千円	2. 平成29年度決算額	26,218千円
3. 平成30年度の事業内容	(1) 各分野を網羅した資料を収集、提供し、利用者の視点に立った書架の整備を進めたことで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) 所蔵する郷土資料の整理を進め、一般に公開した。 (3) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働により図書館運営の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が52,092冊(-5,132冊)、児童書が38,777冊(-767冊)、視聴覚資料及び雑誌が7,453冊(-484冊)、合計98,322冊(-6,383冊)であり、貸出人数は23,029人(-1,445人)であった。 (2) 東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門の協力を得て、未登録となっていた収蔵資料の整理を進め、収蔵資料目録改訂版を作成し、ホームページで公開した。 (3) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、12,183冊(-1,049冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所へ12,500冊(+2,340冊)の図書を配本した。 (4) 書架整理9人(+3人)、読み聞かせ21人(+5人)、図書館支援6人(-5人)のボランティアが登録し、のべ202回(-6回)の活動を行った。 ※()は前年度比較		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 年間を通し各分野から3,085冊(-671冊)の図書等を受け入れ、所蔵資料の充実を図った。また、本館に所蔵していない資料であっても、全国の図書館からの相互借り受けにより、利用者が希望する図書等を取り寄せ、提供したことで、市民の生涯学習活動を支援することができた。しかしながら、利用者等の減少傾向に対し、効果的な対策を講じることができなかった。 ※()は前年度比較 【課題】 人口減、スマートフォン等の新しいメディアの普及等の要因により、利用者、貸出冊数等が年々減少している。今後の対策として、新刊情報や本の魅力等を発信する新たな方法を模索するとともに、アンケート調査により、ニーズの変化を把握し、対応する必要がある。また、子どもの読書活動を促進するためにも、学校、関係各課及びボランティアとの連携をより強化しなければならない。		
6. 内部評価	C	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	・図書館ボランティアに活躍いただいているが、他の分野でもボランティアの高齢化が問題化している。今後ボランティアのネットワークを広げることで継続した活動につながるとともに、ニーズにあったボランティア活動を推進いただきたい。 ・全国の図書館との相互貸借制度は大変評価できる。 ・「図書館を利用せず自分で本を購入している」との声を聞く。将来的な図書館の役割として、本の貸出業務よりも、郷土資料の保存及び子どもの読書活動の推進が主になると思われる。 ・こまくさ号の運行は、経済的に本を購入できない子どもあるいは介護老人福祉施設入所者の読書活動に大変効果的である。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進 2-(5)-①・図書館の充実 3-(2)-②,⑦		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに市民の文化意識の高揚を図る。		
1. 平成30年度予算額	— 千円	2. 平成29年度決算額	— 千円
3. 平成30年度の事業内容	<p>(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけ作りを支援した。</p> <p>(2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居等の読み聞かせを行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園、学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) 6か月児ブックスタート 開催回数: 12回 (±0回) 参加人数: 大人 273人 (+71人) 子ども 197人 (+11人) ボランティア 23人 (-1人)</p> <p>(2) おはなしひろば 開催回数: 23回 (-2回) 参加人数: 大人 95人 (-12人) 子ども 226人 (-6人) ボランティア 51人 (-5人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 開催回数: 55回 (-10回) 参加人数: 大人 169人 (-101人) 子ども 1,540人 (+8人) ボランティア 110人 (-12人)</p> <p>※()は前年度比較</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 少子化の影響のため年々参加人数が減少しているものの、読み聞かせボランティアの積極的な協力を得て、子どもたちが読書に触れる機会を多数提供し、子ども読書活動を推進することができた。</p> <p>【課題】 おはなしひろばについては、広く参加者を募るため、効果的な周知方法を検討しなければならない。また、読み聞かせを担うボランティアの知識及び技術の向上を図るため、より効果的な研修を検討する必要がある。さらには、児童生徒が普段の学校生活の中で図書と出会う環境を作るため、学校及び関係各課との連携を強化し、学校図書室の機能充実を図らなければならない。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>・図書館ボランティアに活躍いただいているが、他の分野でもボランティアの高齢化が問題化している。今後ボランティアのネットワークを広げることで継続した活動につなげるとともに、ニーズにあったボランティア活動を推進いただきたい。</p> <p>・幼児が本に触れる機会を増やすため、6か月児育児相談日に限っているブックスタートを、3歳児検診まで拡充することを検討いただきたい。</p>		